短歌の細部を読む

石川美南の 短歌で遠出

短歌を「読む」とは、具体的にはどういうことなのか。こういうコラムでは、字数の関係で一足飛びに歌の意味を解説して終わってしまうことも多いが（反省）、実際に一首と向き合うときは、その手前にたくさんの工程がある。一つひとつの単語の選択や表記、語順、韻律、連作であれば前後の歌とのつながりなど…。さまざまな角度から検討して、自分なりの解釈らしきものを見いだしていく。今、「工程」という言葉を使ってしまったけれど、意味がゴールでそれ以外は通過点というわけではない。細部を味わい尽くすこと自体が、短歌を読む喜びなのである。

大辻隆弘『短歌の「てにをは」を読む』（いりの舎）は、短歌の細部を丁寧に読むことの面白さ大切さを改めて認識させてくれる一冊だ。大辻は「てにをは」、助詞や助動詞から短歌を読み解いていく。文法を指南するタイプの本ではない。むしろ、微妙な用例をこそ取り上げ、その奥深さを粘り強く味わうところに本領がある。たとえば、「地平までひとつの踊りに踊るときインド広しとわれはおもへる」（小池光）における「に」の流動感。前衛短歌で多用された「ども」の緊迫感。玉城徹の「と」の微妙な匙加減…。長く「てにをは」に注目してきた歌人だからこその読みに感銘を受けつつ、「いや、大辻さん、この歌の『もて』はやっぱり材料の方じゃないでしょうか」などと、私も参加したくなってくる。文語のみならず口語短歌にも切り込んでいるのが興味深く、短歌の修辞の変遷について考えさせられた。

『短歌の「てにをは」を読む』（右）と『比喩の短歌コレクション1000』

もう一冊。日本短歌総研編著『比喩の短歌コレクション1000』（飯塚書店）は、古今の短歌1000首を比喩で分類し、さらに自然、社会などのテーマ別に掲載したアンソロジーである。直喩、隠喩くらいなら意識している人も多いと思うが、換喩、提喩、転喩、活喩、諷喩（それぞれの違い、わかりますか？）まで分けた本は、他にないのではないか。

日本短歌総研は依田仁美を主幹とする歌人のユニット。これまで『恋の短歌コレクション1000』『固有名詞の短歌コレクション1000』などを手がけてきたが、「恋」や「固有名詞」と比べて「比喩」は格段に編集が難しかったことと思う。本書の「はじめに」でも指摘されている通り、比喩の定義自体が諸説ある上に、それぞれの歌の解釈によって分類が変わってくるからだ。しかし、あえて可視化したことで、比喩の幅広さや多義性が浮き彫りになっている。1000通りの比喩が並んでいるだけでも楽しい。労作に感謝したい。

（いしかわ・みな＝歌人）

＊次回は8月9日掲載

文化

N響のコ

広島東洋カープのファンだ。東京・高輪にあるN響の練習所で取材した。見せてくれたスーツの裏地は、カープのイメージカラーの赤。「楽器ケースの内側も赤にしている」と笑う。

もともと野球少年で「小学生の時に中国地方大会の優勝投手になったこともあ

河童忌―芥川の死の意味

労働者文学の勃興によるプルジョアかプロレタリアかという二項対立は、作家たちの精神に暗い影響を与え、精神の自由を尊重した

『玄鶴山房』『河童』『歯

車』などの名作を書いた。不安の裏側の動力とは何か。芥川の死は時代の死とも言える。

いま核兵器の保有国が起

大波小波

経済恐慌と権力の弾圧に

あった。

2025.7.12

用例をこを粘り強である。たつの踊りわれはおおける

『短歌の「てにをは」を読む』㊨と『比喩の短歌コレクション1000』

歌で多用
玉城徹
…。長く
きた歌人
を受けつ
この歌の
の方じゃ

ないでしょうか」などと、私も参加したくなってくる。文語のみならず口語短歌にも切り込んでいるのが興味深く、短歌の修辞の変遷について考えさせられた。

もう一冊。日本短歌総研編著『比喩の短歌コレクション100 0』（飯塚書店）は、古今の短歌1000首を比喩で分類し、さらに自然、社会などのテーマ別に掲載したアンソロジーである。直喩、隠喩くらいなら意識している人も多いと思うが、換喩、提喩、転喩、活喩、諷喩（ふうゆ）（それぞれの違い、わかりますか？）まで分けた本は、他にないのではないか。

日本短歌総研は依田仁美（よしはる）を主幹とする歌人のユニット。これまで『恋の短歌コレクション100 0』『固有名詞の短歌コレクション1000』などを手がけてきたが、「恋」や「固有名詞」と比べて「比喩」は格段に編集が難しかったことと思う。本書の「はじめに」でも指摘されている通り、比喩の定義自体が諸説ある上に、それぞれの歌の解釈によって分類が変わってくるからだ。しかし、あえて可視化したことで、比喩の幅広さや多義性が浮き彫りになっている。1000通りの比喩が並んでいるだけでも楽しい。労作に感謝したい。

（いしかわ・みな＝歌人）

＊次回は８月９日掲載

文化